

# 岩手県高等学校総合体育大会の運営について

高体連サッカー専門部

## 0. コロナ対策について

---

### (1) 事前準備

#### ○大会参加チームの事前準備

(ア)チーム内において感染対策責任者を定め、大会実施委員会の感染対策責任者を把握する。

(イ)競技会・試合に参加する上での注意事項を選手・スタッフ全員が理解する。(不安がある場合は参加を見送る)

(ウ)大会実施委員から健康チェックシートを入手し、競技会開催日まで健康チェックを行う。

(エ)選手が未成年の場合は、保護者が競技会の会場、日時、対戦相手を理解しており、参加を了承している。(了承しない場合は無理に参加させない。)

(オ)イベント中に誰とどのくらいの距離で何分くらい話したか、その時にマスクを着用していたかなど、他人との接触状況を記憶しておく。(感染者発生発覚の際の濃厚接触者特定に役立つため)

#### ○大会事務局の事前準備について

(ア)運営諸室においては、各部屋にアルコール消毒液を設置する。また、3密が発生する環境を阻止する。座席を設置する場合は2m程度離し、正面に向き合うことのないようにする。

(イ)関係者、参加チームの選手・スタッフ、マッチオフィシャルが競技会の際に手洗いをこまめに行えるように手洗い場所(「手洗いは30秒以上」の表示)を確保する。また、ポンプ型の石鹸、消毒液を用意する。

(ウ)トイレについても同様にポンプ型の石鹸、消毒液等を用意する。また、便器の蓋を閉めて汚物を流すように表示する。

(エ)ロッカールームは3密のリスクが高いことから使用しないこととする。

(オ)一日に同会場で複数試合を行う場合は、ドアノブ・取手・ベンチ等を試合終了毎に消毒する。

(カ)審判控室についても(ア)と同様に3密にならないよう配慮する。

(キ)原則マッチコーディネーションミーティングは行わず、ユニフォームについては事前に決めることとする。

(ク)観客については、現状の役員体制では感染症対策を十分に講じることが難しいため、会場には入れない。具体的には①生徒の保護者②参加校の一般生徒③その他一般の方は会場・施設内入場不可とし、④メンバー登録されなかった部員⑤学校の報道部員・卒業アルバム業者は入場可能とする。

※ただし、④、⑤については選手同様健康チェックシートで2週間前より健康観察を行い異常のない者に限る。また、④については大声を出したり手を叩く等の応援行為を禁ずる。⑤については最小限の人数とし、事前に申請することとする。

(ケ)メディアについても健康チェックシートの提出を義務付ける。事前に取材申請した者、各社1名程度の取材を許可する。

(コ)事前申請する出場チームの報道部員・卒業アルバム業者とメディアについては、会場責任者に周知する。

## (2) 往復の移動

(ア)マスクを着用する。

(イ)往復の交通公共機関利用時にはラッシュ時や混んでいる車両を避ける。

(ウ)窓を開ける等、換気がよくなる工夫をする。

(エ)切符を買うために使う指を限定し、その際に使用した指で顔や目を触らない。

(オ)電車・バス等公共の交通機関内において、常に他者と距離をとり、会話も控える。

(カ)目的地に到着後、特につり革、手すりなどを触った手を手洗い、消毒、うがいをする。

(キ)寄り道をせずに、できるだけ早く帰宅する。

## (3) 試合前

(ア)選手・指導者・スタッフはマスクを着用し、会話を最小限に留める。

(イ)健康チェックシートを会場の感染対策責任者に提出する。

(ウ)着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。

(エ)更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開けっ放しにする。

(オ)試合開始前のセレモニー（握手やハイタッチ等）は行わない。

(カ)円陣は行わない。

(キ)ミーティングの回数・時間を減らす、もしくは行わない。

## (4) 試合中

○試合関係者のコミュニケーション、給水等について

(ア)指導者・スタッフ、ベンチに座る選手はマスクを着用する。

(イ)プレー以外の不要な接触を避ける（得点後の喜び、交代時の握手等）。

(ウ)ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも距離についてしっかりと配慮する。

(エ)ベンチでの選手間の距離を2m程度保つ。

(オ)サブの選手は、アップ時の他の選手との距離にも注意を払う。

(カ)水・氷を溜めたクーラーボックスにボトルを漬けない。

(キ)ボトルを他の選手と共有しない。

(ク)タオル等、リネンを他の選手と共有しない。

(ケ)うがいた水をピッチ内に吐かない。

(コ)ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐いたり、手鼻をかまない。

○ハーフタイム・交代・退場時、試合終了時の対応について

(ア)更衣室に戻る前に消毒や手洗い、うがいをする。

(イ)選手交代後においても消毒や手洗い、うがいをする。

(ウ)退席や退場の際等、審判員と会話をする事があってもその距離には十分に配慮する。

(エ)怪我をした選手を他の選手がむやみに接触しない。また、ピッチ外に当該選手を移動させる際は、おんぶやだっこを避け、担架を活用する。仮に、おんぶ等をして当該選手を移動させた場合、移動に関わった人は速やかに消毒を行う。

(オ)メディカルスタッフはラテックスグローブを活用する。

(カ)試合後のチーム、審判員との挨拶、相手チームベンチへの挨拶は行わない。

## (5) 試合後

(ア)更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開けっ放しにする。

(イ)着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。

(ウ)シャワーの利用についてはローテーションを組んで交代で浴びる等の工夫をする。

(エ)試合会場のルールに従い、ゴミを密封した状態で処分するか、持ち返る。

## (6) 帰宅後の過ごし方

(ア)手洗いうがいを徹底する。

(イ)バランスの良い食事をとる。

(ウ)検温と共に行動記録を書く。

(エ)早めに就寝し、十分な睡眠時間を確保する。

## (7) 事後対応

(ア)帰宅後 14 日以内にチームの中から感染者が出た場合は、大会実施委員の感染対策責任者に速やかにその旨伝える。

# 1. 主管業務について

---

## (1) 業務内容

会場設営（ゴール、ベンチ、机、本部テント、チームテント、コーナースタンド、テクニカルエリア）、マッチコーディネーションミーティングの進行、ウォーミングアップ場所の確認、試合進行、公式記録の作成、審判報告書、第 4 審、担架、試合結果の入力（GoalNote）

## (2) 会場設営および試合運営

\* 設置作業は、第 1 試合の 2 チームで分担して行う。

\* 撤去作業は、最終試合の 2 チームで分担して行う。

\* 試合運営は、両チームで分担して行う。業務内容は（1）のとおり。

## (3) ベンチ

\* 組み合わせ番号の若いチームがピッチに向かって左側とする。

## (4) マッチコーディネーションミーティング

予選ラウンドは原則コロナ対策のため行わない。ユニフォーム決定は事前に代表者同士で連絡を取り合って行う。R8 以降については試合開始の 70 分前に短時間にて行う。

## (5) ボールパーソン

\* ボールは、指定球（モルテンペレーダ）を両チームから 2 球ずつ出しあい、4 球で運営する。

\* 予選ラウンドにおいてはマルチボールシステムは採用しないので、ピッチサイドにボールは配置しない。但し、ボールパーソンは当該チームの話し合いにおいて配置しても良いこととする。

R8 以降については両チームから 3 球ずつの 6 球で、マルチボールシステムにて運営する。ボールパーソンは当該チームより配置する。

## (6) 運営グッズ

大会期間中は運営グッズケースに入れて保管し、大会最終日に会場責任者がフットボールセンタ

ーまで持参する。

【グッズ一覧】ストップウォッチ、マーカー、空気入れ、空気圧ゲージ、交代ボード、消毒液、ポンプ式せっけん、手洗い表示

(7) 公式書類の取り扱い

大会期間中は会場担当者が保管し、大会最終日にいわぎんスタジアムまで持参する。

\*メンバー表：大会専用のものを使用する。各チームから3枚提出してもらう。

(本部、審判、相手)

\*公式記録：リーグで使用している3枚複写式のものを使用する。

\*審判報告書：大会専用のものを使用する。

(8) 退場者が出た場合

その試合の終了後、速やかに規律担当者まで報告する。

(9) 試合結果の入力及び公開について

GoalNoteにて報告する。

(10) 主管業務割当表

マッチレベル	担当割当
予選ラウンド	当該チーム
準々決勝、準決勝、決勝	当該チーム

## 2. 審判について

---

(1) 決勝ラウンドについては主審および副審は事務局（審判担当）が割り当てるが、予選ラウンドについては参加チームにて運営する。

(2) 予選ラウンドについては、第4の審判を割り当てない。メンバー交代等は主管が行うこととする。

## 3. プログラムについて

---

(1) 各チームには5部ずつ配布する。

(2) プログラム作成に伴う期限については厳守すること。 令和3年5月6日（木）締め切り

## 4. その他

(1) コロナ対応や荒天時や地震発生時の実施及び中止の決定は実施委員長とする。

【コロナウイルスによる大会中止の判断について】

- 1 岩手県から「緊急事態宣言」が発令された場合は中止とする。
- 2 岩手県教育委員会から次の指示が出た場合は中止とする。
  - ①学校の休校・部活動の自粛要請(一斉)
  - ②学校の通常授業・部活動の自粛要請(一斉)
  - ③学校の通常授業・大会自粛要請(一斉)
- 3 政府から全国を対象とした「緊急事態宣言」が発令された場合は中止とする。

【大会前、大会中に感染者が発生したときの対応について】

①感染者が発生した場合の対応

大会役員	感染者以外の大会役員が感染者とどのような接触歴があったかを確認する。濃厚接触者の場合は判明日から2週間は自宅待機とし、別の役員が運営にあたる。
審判員(外部)	感染者以外の審判員、大会役員等が感染者とどのような接触歴があったかを確認する。濃厚接触者の場合は判明日から2週間は自宅待機とし、別の審判員が運営にあたる。
参加チームスタッフ、選手	感染者以外の濃厚接触者の行動歴を割り出す。感染者以外のチームスタッフ・選手は基本的に濃厚接触者になると思われるため、チームは試合への参加を自粛する。

②濃厚接触者となった場合の対応

大会役員	当該者は2週間の自宅待機とする。2週間経過後、高熱などの症状が出なかった場合は復帰できる事とする。
審判員(外部)	当該者は2週間の自宅待機とする。2週間経過後、高熱などの症状が出なかった場合は復帰できる事とする。
参加チームスタッフ、選手	当該者は2週間の自宅待機とする。2週間経過後、高熱などの症状が出なかった場合は復帰できる事とする。

◇岩手県サッカー協会ガイドラインより

・チームの選手・役員(直接)に感染者が発生した場合、該当者含めチームが最低2週間の休止を徹底する。期間中の公式戦は棄権とし、チームに不利益を生じさせない。

(トーナメント大会は3-0の不戦勝、リーグ戦は可能な限り日程延期をする)

・チーム関係者(間接)・所在地域から感染者が発生した場合、チームの出場は制限しない。ただし濃厚接触者となった場合、当該者はPCR検査を必須とし陰性が確認できるまで活動はできない。チームの予防による大会棄権を認めるが、不利益は生じさせない。

◇「濃厚接触者の定義」

患者(確定例)が発病した日の2日前以降に接触した者のうち、次の範囲に該当するものを指す。

- ・患者(確定例)と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を含む)があった者
- ・適切な感染防護なしに患者(確定例)を診察、看護もしくは介護していた者
- ・患者(確定例)の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・手で触れること又は対面で会話することが可能な距離(目安として1メートル以内かつ15分以上の接触)で、必要な感染予防対策なしで「患者(確定例)」と接触があった者(患者の症状などから患者の感染性を総合的に判断する)。

◇「共通条件」

罹患患者が発生した場合、本人が発症2日前から現時点での行動歴を明らかにすることが重要。「大会役員」「審判員」「参加チームスタッフ、選手」等試合に関わる全ての者は試合開催2週間前の行動歴(いつ、どこに行き、誰と会ったか)を記録しておくことが求められる。

日付	行先	滞在時間	接触者
6月21日	部活 学校グラウンド	3時間	部員全員
6月25日	〇〇接骨院	1時間	担当施術者と受付担当者

(2) 事前にAED設置場所を確認しておくこと。

(3) 物損等の事故があった場合は実施委員長まで速やかに報告すること。